

冬に備えて呼吸器病を予防しましょう！！

牛伝染性鼻気管炎や、牛RSウイルス病などは、呼吸器病のほか、流産や繁殖障害が発生することもあります。呼吸器病6種混合ワクチンを接種して、冬季に備えましょう！

☆ 牛伝染性鼻気管炎（IBR）

- 牛ヘルペスウイルスによって起こる伝染病で、**発熱、鼻汁（水様性～膿性）、下痢、結膜炎（瞼が腫れる）、突然の乳量低下**など、様々な症状が認められます。
- 妊娠牛に感染すると、**流産**が発生することもあります。
- **一度感染すると、生涯にわたり体内にウイルスが潜伏する**ので、回復した後も輸送や分娩のストレス等により免疫力が低下すると、再発する恐れがあります。
- 致死率は高くありませんが、細菌の二次感染で症状が悪化しやすく、侵入後は牛舎内にまん延しやすいため、**経済的ダメージが大きくなります**。
- 全国的には、北海道を中心に、毎年500頭を超える発生が確認されています。
- **管内でも散発的な発生があります。**

☆ 牛ウイルス性下痢-粘膜病（BVD-MD 1型と2型）

- 1型と2型の2つのタイプがあり、**発熱・下痢**などの症状がみられるほか、**異常産や繁殖障害**など生産性の低下につながります。
- **妊娠初期（100日齢前後まで）に感染すると、生まれてくる子牛は持続感染牛となり、生涯にわたってウイルスを排出し続けます。**
- 持続感染牛が存在すると、農場内でウイルスがまん延し、流死産や奇形子牛の娩出が増えるだけでなく、持続感染牛から生まれる子牛は必ず持続感染牛になるため、次々に広がってしまいます。



☆ 牛RSウイルス病

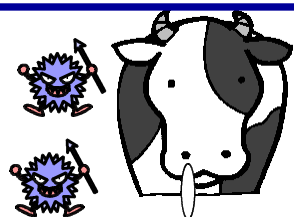
呼吸器症状のほか、**乳量が著しく減少**したり、**流産**が起こることもあります。また、**細菌の二次感染で重篤化し、死亡する例もあります。**

☆ 牛パラインフルエンザ

発熱、咳、鼻水といった呼吸器症状がみられ、IBRや牛アデノウイルス感染症などととも**に輸送熱**と呼ばれています。

☆ 牛アデノウイルス感染症

呼吸器症状がみられ、季節に関係なく発生し、子牛の**多発性関節炎**にも関与していると考えられています。



ご不明な点がございましたら当所までお気軽にご連絡ください！！

京都府南丹家畜保健衛生所
TEL:0771-42-3308
FAX:0771-42-5117